

研究主題 自分の考えを書いて表現する力を養う英語科学習指導の在り方
— 中学校第1学年Unit6における相手に伝えることを目的としたクリエイティブ・ライティングの工夫を通して —

小美玉市立美野里中学校 教諭 今野 俊輔

研究の概要及び索引語

自分の考えを書いて表現する力を養うためには、実際の場面において既習の語彙や文構造を適切に活用しながら、言語を実際に使用することができるようにする言語活動を行うことが必要であると考え。本研究では、相手に伝えることを目的としたクリエイティブ・ライティングの工夫を通して、自分の考えを書いて表現する力を養う英語科学習指導の在り方を追究した。

索引語： 中学校，外国語（英語），自分の考え，クリエイティブ・ライティング，言語運用能力

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年9月）（以下「解説」という。）には、改訂における改善の基本方針として、「自らの考えなどを相手に伝えるための『発信力』やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する」と示されている。このことから、既習の語彙や文構造等の知識を活用して、自分の考えなどを書いて表現する力を養うことが重要と考える。

本校第1学年の生徒に対して、イラストを見て自分が思ったことや感じたことを、自由に、全部で10の英文で書くテストを実施したところ（平成23年7月14日実施、第1学年*組*人（*人欠席））、イラストの内容に応じた英文を10文全て書くことができた生徒は全体の1割にも満たなかった。一方、約5割の生徒は、イラストの内容に応じた英文を5文以下しか書くことができなかった。これらのことから、生徒は自分の考えを書いて表現する力が十分でない状況にある。また、学力診断のためのテスト（茨城県教育委員会）の再テストでは、県の平均と同様に本校の平均も、書いて表現する問題が、聞いて理解する問題や読んで理解する問題よりも正答率が低い結果となった。以上のことから、書いて表現する力を育むことの指導が十分でなかったと考えられる。

そこで、本研究では、中学校第1学年Unit6の学習において、クリエイティブ・ライティングの工夫を通して、様々な語彙や文構造を活用しながら、場面に応じて自分の考えを書いて表現する活動を行う。自分の考えとは、独創的で他の人とは違ったアイデアという意味ではなく、自分の思ったことや感じたことなどであると考え。また、クリエイティブ・ライティングとは、語彙や文構造を指定せずに、ダイアログ（対話）やスキット（寸劇）に合うよう、学習者が自分の思ったことや感じたことを、自由に英文で書いて表現する学習

活動である。この学習活動では、生徒が興味をもちやすく、言語を実際に使用する場面を想定したイラストや漫画を描いたクリエイティブ・ライティングシート（以下「CWシート」という。）を使用する。場面の説明や登場人物の台詞として適切な英文を、生徒が既習の語彙や文構造を適切に活用しながら、自分で自由に考えて書くようにすることで、言語運用能力（実際の場面において言語を実際に使用する力）が高まると考える。このようなクリエイティブ・ライティングの工夫を行えば、自分の考えを書いて表現する力を養うことができると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

中学校第1学年Unit6における、相手に伝えることを目的としたクリエイティブ・ライティングの工夫を通して、自分の考えを書いて表現する力を養う英語科学習指導の在り方を追究する。

3 研究の仮説

中学校第1学年Unit6において、相手に伝えることを目的としたクリエイティブ・ライティング活動を行えば、実際の場面において既習の語彙や文構造を適切に活用しながら、言語を実際に使用できるようになり、自分の考えを書いて表現する力が養われるであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

ア 自分の考えを書いて表現する力について

解説の作成協力者である金子朝子氏は、解説に示されている「自分の考え」を「独創的で他の人とは違ったアイデアという意味ではなく、自分の思ったこと、感じたことなどを指している。」と定義している。その上で、「『書くこと』では、与えられた英語を単に書き写すことなどができるだけでなく、自分の考えなどを表現するために蓄積した知識を総合して書くことができることを目標としている。」と述べている。また、『日本語大辞典』（第二版）には、書くことは文字や文章を記すことであり、表現とは感情などを他に伝えうる形に表すこととある。そこで、本研究においては、自分の考えを書いて表現する力を、既習の語

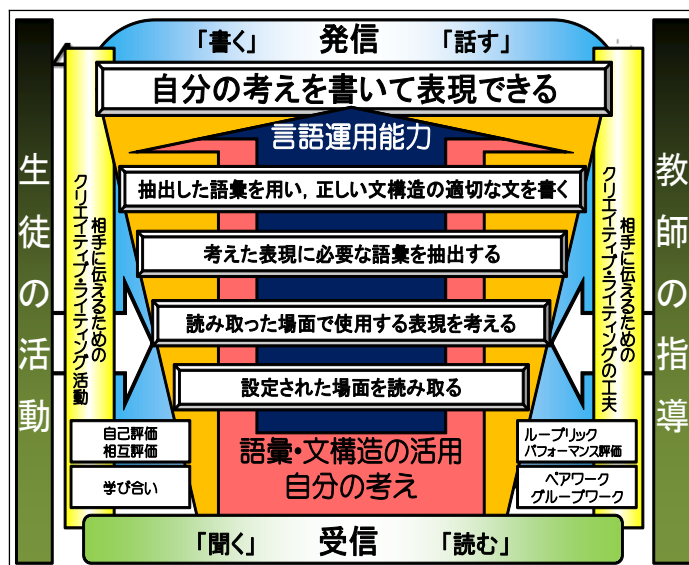


図1 自分の考えを書いて表現する力が養われる過程

彙や文構造等の知識を活用して、自分の思ったこと、感じたことなどを文字に記して相手に伝える力のことでありと捉えた。

イ 自分の考えを書いて表現する力が養われる過程

自分の考えを書いて表現する力が養われる過程を図1のように捉えた。英語学習において、生徒は聞いたり読んだりという受信を通して身に付けた語彙や文構造を、自分の考えなどと結び付けながら活用し、書いたり話したりして発信する活動を行う。具体的な活動として、生徒は、教師が作成したCWシートのイラストや漫画を見て、第一に、設定された言語の使用場面を読み取る。第二に、その場面で使用する表現を考える。第三に、表現するために必要な語彙を言語知識の中から抽出する。第四に、抽出した語彙を用い、正しい文構造で、場面に応じた適切な文を書く。以上の過程を経て、言語運用能力が高まり、自分の考えを書いて表現する力が養われると考えた。

ウ 自分の考えを書いて表現する力が養われた生徒の姿

アで定義した「自分の考えを書いて表現する力」が養われた生徒とは、具体的には、自分の考えを、より多く

表1 自分の考えを書いて表現する力が養われた生徒の姿

- | |
|-------------------------------------|
| a 自分の考えを、より多くの英文で書いて表現できる生徒(量的視点) |
| b 自分の考えを、より多くの単語で書いて表現できる生徒(量的視点) |
| c 自分の考えを、正しい文構造の英文で書いて表現できる生徒(質的視点) |
| d 場面に応じた適切な内容の英文を書くことができる生徒(質的視点) |
| e 自分の考えを、正しい単語で書いて表現できる生徒(質的視点) |

の正しい単語や英文を用い、場面に応じて適切に書いて表現できる生徒のことである。そこで、自分の考えを書いて表現する力が養われた生徒の姿を表1のように捉え、a～bの二つの量的視点、c～eの三つの質的視点、以上の5項目で検証していくこととする。

エ クリエイティブ・ライティングの工夫を通じた表現活動

クリエイティブ・ライティングの工夫とは、CWシートの工夫、クリエイティブ・ライティング活動（以下「CW活動」という。）の工夫、評価の工夫のことである。それらの工夫を通して、生徒が、既習の語彙や文構造等の知識を活用しながら、自分の思ったことや感じたことを、自由に英文で書いて表現する活動を行うことで、言語運用能力を高め、自分の考えを書いて表現する力を養う手立てとする。

(2) 主題に迫るために

ア 生徒の意識と実態

意識調査で、4技能の中で自信をもっている力を「書く力」と回答した生徒は最も少なかった（図2）。また、4技能の中で身に付

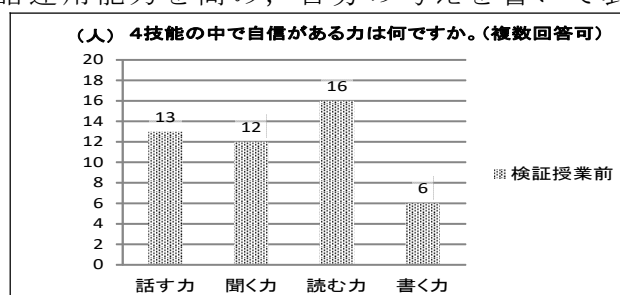


図2 4技能に関する意識調査

（平成23.7.14実施 第1学年*組 *人 *人欠席）

きたい力を「書く力」と回答した生徒も少数であった。実態調査では、自分の考えを書いて表現する力が十分でない状況にあることが分かった。以上のことから、「書く力」を養う指導の充実が重要な課題であると捉えた。

イ クリエイティブ・ライティングの工夫

(7) CWシートの工夫

解説には、「教材は、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げる」とある。そこで、教師は、言語を実際に使用する場面となるイラストや漫画を描いたCWシート（資料1）を作成する。描く上での工夫点は、以下の3点である。第一に、生徒が興味・関心をもつことができる内容のイラストや漫画を描く。第二に、使用する表現をイメージしやすいように、「いつ」、「どこで」、「誰が」、「何を」、「どのようにして」が明確に分かるように描く。第三に、既習の語彙や文構造の活用力を高めるために、それらを用いて表現することが可能な場面を描く。なお、本研究では、2種類のCWシートを作成する。CWシート（1）では、既習や新出の語彙や文構造と言語の使用場面を提示する。CWシート（2）では、CWシート（1）で確認した語彙や文構造を活用する言語の使用場面を提示する。

資料1 CWシート

CWシート(1) [書く内容→指定]

- 既習や新出の語彙や文構造と言語の使用場面を提示する。

CWシート(2) [書く内容→自由]

- 確認した語彙や文構造を活用する言語の使用場面を提示する。

表現内容の指定

分かりやすい場面設定

興味・関心もてる内容のイラストや漫画

指定された内容の英文を書く

イラストや漫画の場面に応じて自分で考えて英文を書く

(イ) CW活動の工夫

CW活動の工夫点は、図3に示すように、語彙や文構造の提示から活用、編集を行えるようにすることである。まず、CWシート（1）を使用し、生徒が指定された内容の英文を書くことで、語彙や文構造を確認し、身に付ける活動を行う。CWシート（2）では、提示された場面に応じた英文を、

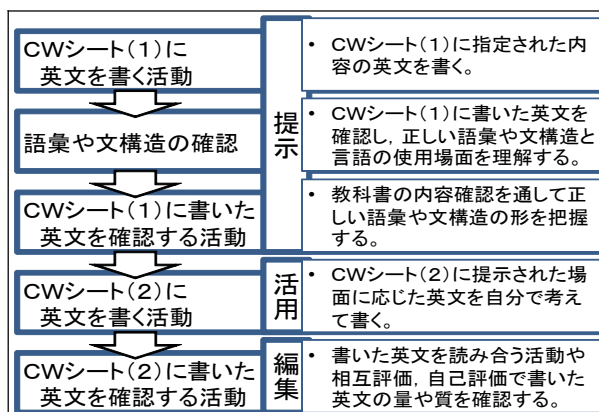


図3 CW活動の流れ

生徒が自分で考えて書くことで、語彙や文構造を活用しながら、言語を実際に使用する活動を行う。編集作業として、ペアワークやグループワークでの学び合いの中で、相手に伝えるために表現する活動を行う。書いたり話した

りした英文を、読んだり聞いたりすることで4技能の育成を図る手立てとする。また、相互に評価することで、表現力の向上を図る手立てとする。

(ウ) 評価の工夫

本研究では、ループリック（資料2）を用いた評価を行う。西岡加名恵氏によると、ループリック（評価指標）とは、成功の度合いを示す数段階程度の尺度と、尺度に示されたレベル（評点・評語）のそれぞれに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語からなる評価基準票である。パフォーマンスとは、授業での生徒の表現活動のことである。本研究におけるパフォーマンス（自分の考えを書いて表現する活動）を、表1で挙げた二つの量的視点と三つの質的視点について、具体的に数値化した5段階の評価基準で評価する。生徒は、活動前にループリックを確認することで、本時のパフォーマンスの目標を設定し、活用すべき知識やスキルを明確にすることができる。さらには、ループリックによる自己評価を通して、自分の到達度や課題を明確に把握することができる。

資料2 クリエイティブ・ライティングのループリック

			ルーブリック		《評価対象技能「書くこと」》				
学習活動	評価の観点		評価基準						
			A (十分満足できる)		B (おおむね満足できる)		C (努力を要する)		
	外国語 評価の観点	自分の考えを書いて表現する力が養われた生徒の姿 (検証項目)	具体化された観点	A	B	C	D	E	
クリエイティブ・ライティング活動	外国語 表現の能力	a 自分の考えを、より多くの英文で書いて表現できる生徒 (量的視点)	・CWシートに書いた英文の数	・英文を9文～10文以上書いている。	・英文を7文～8文書いている。	・英文を5文～6文書いている。	・英文を3文～4文書いている。	・英文を0文～2文書いている。	
		b 自分の考えを、より多くの単語で書いて表現できる生徒 (量的視点)	・CWシートに書いた単語の数	・単語を32語～40語以上書いている。	・単語を24語～31語書いている。	・単語を16語～23語書いている。	・単語を8語～15語書いている。	・単語を0語～7語書いている。	
		c 自分の考えを、正しい文構造の英文で書いて表現できる生徒 (質的視点)	・CWシートに書いた正しい文構造の英文の数	・正しい文構造の英文を9文～10文以上書いている。	・正しい文構造の英文を7文～8文書いている。	・正しい文構造の英文を5文～6文書いている。	・正しい文構造の英文を3文～4文書いている。	・正しい文構造の英文を0文～2文書いている。	
		d 場面に応じた適切な内容の英文を書くことができる生徒 (質的視点)	・CWシートに書いた場面に応じた適切な内容の英文の数	・場面に応じた適切な内容の英文を9文～10文以上書いている。	・場面に応じた適切な内容の英文を7文～8文書いている。	・場面に応じた適切な内容の英文を5文～6文書いている。	・場面に応じた適切な内容の英文を3文～4文書いている。	・場面に応じた適切な内容の英文を0文～2文書いている。	
	言語や文化についての知識・理解	e 自分の考えを、正しい単語で書いて表現できる生徒 (質的視点)	・CWシートに書いた正しい綴りの単語の数	・正しい綴りの単語を32語～40語以上書いている。	・正しい綴りの単語を24語～31語書いている。	・正しい綴りの単語を16語～23語書いている。	・正しい綴りの単語を8語～15語書いている。	・正しい綴りの単語を0語～7語書いている。	

(3) 授業実践

ア 単元の指導計画

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 工 夫
1次	第1時	クリエイティブ・ライティング1 ・クリエイティブ・ライティング活動についてのガイダンスを行う。	・CWシートを用いて実際に活動しながら説明することで、活動への理解を促し、今後の活動について見通しをもたせる。 ・身近な話題や既習の語彙・文構造を取り入れることで、学習活動に抵抗感をもたせないようにする。
2次	第2時	クリエイティブ・ライティング2 ・第三者を相手に紹介する英文を書く。	・家族や友達、有名人の写真やイラストを用意させ、その人物の紹介文を書くクリエイティブ・ライティング活動を行うことで、学習活動に興味をもたせ、書く内容が深まるようにする。
	第3時 (本時)	クリエイティブ・ライティング3 ・第三者について、相手に尋ねたり、答えたりする英文を書く。	・前時で書いた家族や友達、有名人の紹介文を参考にしながら、その人物について尋ねたり、答えたりするクリエイティブ・ライティング活動を行うことで、学習活動に興味をもたせ、書く内容が深まるようにする。
	第4時	クリエイティブ・ライティング4 ・第三者について、相手に説明する英文を書く。	・第2時で書いた家族や友達、有名人の紹介文を参考にしながら、好きではないことや行わないことについて説明するクリエイティブ・ライティング活動を行うことで、学習活動に興味をもたせ、書く内容が深まるようにする。
3次	第5時	クリエイティブ・ライティング5 ・第三者について、相手に説明する英文を書いて発表する。 ・発表の内容について質疑・応答する。	・家族や友達、有名人について紹介・説明したり、尋ねたりするクリエイティブ・ライティング活動を行い、その内容についての発表や質疑・応答を行うことで、本時の学習内容の定着を図る。

イ 本時の指導

(ア) 単元名

Unit 6 グリーン家の人々 (NEW HORIZON English Course 1 東京書籍)

(イ) 単元目標

一般動詞の三人称単数現在形の形・意味・用法を理解し、表現できる。

(ウ) 本時の展開

学習活動・内容	指導（○全体・◎個別）及び評価		時間
	J T E	A L T	
1 英語による Q & A を通して、前時までの学習内容の確認を行うと共に、英語学習の雰囲気作りを行う。 ALT/JTE : How are you? S1 : I'm fine, thank you. And you? ALT/JTE : How is the weather today? S2 : It's sunny. ALT/JTE : What day of the week is it today? S3 : It's Tuesday.	○ より多くの生徒の発表の場となるよう、指名の仕方を工夫する。	○ 前時までの既習の表現を用いて学習内容が確認できるようにすると共に、自然に英語学習の雰囲気になるようにする。	2分
2 本時の学習課題を確認する。 <u>Creative Writing 5: 家族・友達・有名人について尋ねよう</u>	ALT/JTE : How many books do you have? S4 : I have three books. ALT/JTE : What do you do after school? S5 : I play baseball after school.		5分
(1) 本時の目標とルーブリックによる評価基準を提示する。 (2) 第三者について、相手に尋ねたり答えたりする英文を CW シート（1）に書く。	○ 具体的な活動目標を設定することで、生徒の学習活動への意識を高める。 ○ グループワークで、生徒がお互いに教え合ったり確認し合ったりすることで、課題への意識を高めると共に、理解が深まらない生徒や書けない生徒に対応する。		10分
3 本文の Reading Comprehension を通して新出の語彙・文構造を確認する。 (1) 本文の内容に関する、ALT と JTE の対話を通して聞き、一般動詞の三人称単数現在形（疑問文）の形・意味・用法を理解する。 JTE : "Do Lisa <u>likes</u> Kabuki?" ALT : You should say, "Does Lisa <u>like</u> Kabuki?" JTE : Oh, I see. Well, "Yes, she <u>do</u> ". ALT : No, no! You cannot say, "Yes, she <u>do</u> ". JTE : Really? What should I say? 生徒 : "Yes, she <u>does</u> ". (2) 本文について、ALT のモデルを聞き、音読を通して発音を練習する。 (3) 新出語彙について、発音の練習と意味の確認を行う。 (4) Question & Answer を行い、本文の内容を理解する。	○ 前時までに学習した一般動詞の三人称単数現在形の肯定文の用法と関連させながら、一般動詞の三人称の疑問文には Does を使うことを強調し、本時の課題について確認させる。 ○ 間違った表現を提示すること ○ JTE の間違いを訂正し、正しい表現の仕方を提示する。 ◎ 理解が深まらない生徒には繰り返し対話を聞かせ、さらに板書と説明を通して理解が深められるようにする。 言語や文化についての知識・理解 一般動詞の三人称単数現在形（疑問文）の形・意味・用法を理解している。（発表）	○ 前時までの既習の表現を用いて学習内容が確認できるようにすると共に、自然に英語学習の雰囲気になるようにする。	10分
4 CW シート（1）の内容を確認する。 (1) CW シート（1）に書いた英文を見直し、正しい語彙や文構造を理解する。 (2) 全体で発表し、適切な内容や正しい表現を理解する。 (3) ペアで読み合う活動を行う。	○ 生徒と共に発音し、生徒が自信をもって発音できるようにする。 ○ 本文の和訳にも触れながら、ポイントを絞って質問する。	○ 発音のモデルを正しく示す。 ◎ 発表した生徒を賞賛し、ステッカーを与える。	10分
5 CW シート（2）を使用した表現活動を行う。 (1) 家族・友達・有名人について、相手に尋ねたり答えたりする英文を CW シート（2）に書く。 (2) 書いた英文をグループ内で聞いたり読んだりして、適切な内容や正しい表現を確認して相互評価を行う。 (3) ルーブリックを用いて自己評価を行うと共に、適切な内容や正しい表現を確認し、自分が書いた英文を訂正する。 (4) ペアで読み合う活動を行う。	◎ 机間指導を通して、新出の語彙や文構造を正しく理解し、活用できているかを確認し、書くことができない生徒には助言する。 ◎ 訂正箇所について、例を交えて示す。 ◎ 机間指導を通して、正しく読んで内容を相手に伝えているかを確認し、活動に意欲的でない生徒や正しく話せない生徒に助言する。 ◎ 机間指導を通して、活動に意欲的になれない生徒や書くことができない生徒に声かけを行う。 表現 第三者について、相手に尋ねたり答えたりする英文を書いて表現している。（観察・ワークシート） ◎ 内容や表現について、聞いたり読んだりしながら、訂正の必要の有無を正しく判断し、書き手にフィードバックできているかを、机間指導を通して確認し、助言する。 ○ 正しく自己評価できない生徒に助言し、個々の達成度・課題を具体的に気づかせ、次時の学習意欲を高める。 ◎ 机間指導を通して、正しく読んで内容を相手に伝えているかを確認し、活動に意欲的でない生徒や正しく話せない生徒に助言する。	○ 発表したことを賞賛し、ステッカーを与える。 ○ 適切な内容や正しい表現の仕方について助言する。	10分
6 次時の確認をし、挨拶をする。			5分
			3分

ウ 授業の記録

抽出した生徒	A	英語学習に積極的に取り組む。主体的に考えながら課題を解決することができる。		
	B	学習への関心・意欲が高く、英語学習に積極的に取り組む。基礎・基本の定着が十分ではなく、苦手意識をもっている。		
	C	学習にまじめに取り組むが、英語学習に対して苦手意識をもっており、消極的な取組である。		
学習の流れ	全体の様子	抽出した生徒の様子		
		A	B	C
1 英語による Q&A を通して、前時までの学習内容を確認すると共に、英語を学習する意識を高める。	教師の英語による発問を聞き、挙手をして英語で答えることによって、前時までの学習内容を思い出し、英語を学習する心構えをもつ。	教師の発音を集中して聞く。周囲の生徒と発問の内容やその解答を確認し合い、理解が深まる様子が見られる。周囲の生徒に促されて挙手し、正しく解答する。	挙手はしない。「Friday」という語彙を聞いて今日が金曜日であることや、「How many」を聞いてそれが数を探る表現であることに気付くなど、他の生徒の解答を聞いて理解を深める。	他の生徒の解答を聞いて、隣の生徒に向かって口ずさみ、正しい解答を聞く。「How many」の発問を聞き、その意味が分からないので、教科書で調べる。
2 CWシート（1）による導入を通して、本時の学習課題をつかむ。	- CWシート（1）のイテロ一選手に関する Q&A を英文で書き、本時の課題をつかむ。 - Does を使って疑問文を書くということに気付く。	CWシート（1）にすぐに取りかかり、英文を書き始める。1文目はすぐに書き終える。2文目は書く内容をしばらく考えてから書く。書き終えた後は隣の生徒のワークシートを見て内容を確認する。	教科書は参考程度にしながら、「Does he ~?」の文を自分で正しく書く。自分の書いた表現が正しいか周囲の生徒に尋ね、確認する。	自分で英文を書き、その後教科書を見たり隣の生徒のワークシートを見て尋ねたりして書いた内容が正しいか確認する。答えの文をすぐに書くが、疑問文は書く内容がなかなか思い浮かばず、時間内に書き終わらない。
3 教科書の内容理解を通して新出の語彙や文構造を理解する。 (1) ALT と JTE の会話を聞き、新出の文構造を知る。 (2) 教科書の本文を音読して発音を練習する。	- 一般動詞の三人称単数現在形の疑問文における動詞や助動詞への S の付け方について考え、理解する。 - 課題をつかんだ生徒からの意見が活発に出される。 - 教科書の本文を読んで発音する。 - 発音することが難しい語彙や意味が分からない語彙に気付く。	- 黒板を見ながら教師の発問に対して解答を声に出してつがやき、理解が深まる様子が見られる。 - 大きな声ではっきり正しく発音する。ALT の発音のリズムに合わせて読む。	- 黒板を見ながら教師の説明を聞いたり教科書の本文を黙読したりする。 - 既習の語彙はしっかりと発音するが、read などの新出の語彙になると声が小さくなり読みまなくなったりして自信がない様子になる。	本文をはっきりと発音するが、長い英文は途中でつまって言えなくなり、音読をやめ、照れ笑いをする。
(3) 語彙を音読して発音を練習し、意味を知る。	- 新出の語彙を読んで発音する。 - 事前の予習で調べた意味を発表する。 - 発表を聞いて語彙の意味を正しく把握する。	予習が丁寧に行われており、他の生徒の発表を聞きながら、自分のノートに書かれた内容を確認する。	予習をしっかりとやってきており、他の生徒の発表の時、自分のノートを見ながら積極的に発音を練習する。繰り返し練習した後は、新出の語彙もしっかり発音する。	予習をやってきておらず、他の生徒の発表を聞きながら、新出語彙の意味をノートに書き込む。
(4) Q&A を通して本文の内容を把握する。 	- 本文の内容について、教師の日本語による発問に日本語で答えることで、予習で考えた本文の内容を確認する。 - 発表を聞いて本文の内容を正しく把握する。	隣の生徒と教師の発問の内容を確認し合う。その後、隣の生徒が自信をもって挙手し、発表する。最後の音読では、(1)～(4)の活動を通して内容や発音の理解が深まったため、自信がついて前よりも大きな声で発音する。	正しい解答に口にしてはいたが、自信がない様子を見せる。read や write の意味を周囲に聞いたり、教師からのアドバイスを聞いたりしてから挙手し、正しく解答する。他の生徒の解答を聞いたり、発音を練習したりして理解が深まると、自信をもち、積極的に取り組む。	隣の生徒に教師の発問や本文の意味を聞き、内容理解に努める。発表する生徒に視線を向け、意味を知ろうとする。最後の音読では、(1)～(4)の活動を通して、内容や発音の理解が深まったため、前よりも正しく発音する。
4 CWシート（1）の内容を確認し、新出の文構造を正しく理解する。 (1) 自分の書いた内容を確認し、訂正する。 (2) 全体で発表する。	- CWシート（1）のイテロ一選手に関する Q&A を板書し、正しい表現を理解する。 - 他の生徒をワークシートの内容を見ながら確認する生徒が多い。 - 英文を正しく書くことができたか自信をもてず、発表に消極的である。	- 確認したが、訂正する箇所がなかったため、周囲の生徒の CW シート（1）を見て訂正箇所をアドバイスする。 - 大きな声でしっかりと発音する。	- 文構造を正しく理解して書く。書いた内容を他の友達に聞いて確認する。 - 他の生徒と CW シート（1）の内容を確認し合う。全体で発音する時はしっかりと発音する。	- 時間内に書けなかった疑問文を、教科書や隣の生徒の CW シート（1）の英文を参考にしながら、自分で書く。少しでも書く内容が思い浮かばない。全て書き終えた後は、周囲の進み具合が気になり、周囲を見る。 - 板書された英文を見て繰り返し読んで練習する。自分で書いた疑問文には「？」がなかったのので、板書を見て付け加える。
(3) 書いた英文をペアやグループで読み合う活動を行う。	4人の生徒と読み合う活動を行うというノルマをこなそうと積極的に活動する。	自分から周囲の生徒4名に声をかけ、積極的に読み合う活動を行う。生徒1名の解答が間違っていたのでそれを正しく丁寧に訂正する。	積極的に読み合う活動に取り組む。声に出して読むことによって正しい発音に気が付く。	読み合う活動にすぐに取り組む。女子2名のみと読み合う活動を行い、男子とは行わなかった。相手の読んだ内容にうなずき、理解が深まる。
5 CWシート（2）による表現活動を行う。 (1) CWシート（2）に英文を書く。 	- CWシート（2）を通して、<u>家族・友達・有名人に関する Q&A</u> を英文で書く。 - 全体的に活動に熱心に取り組む。一方、「書く内容が思い浮かばない」「表現が分からない」という理由で、書く英文の量・質に個人差が出る。	「やるぞ！」とつがやき、活動に大変高い意欲・集中力を示す。紹介する人物の人物像に合う多くの語彙を使おうと考えながら、CWシート（1）で用いた have や want 以外に sing や listen, drive などの既習の語彙を数多く用いてじっくりと書く。教師のアドバイスにもしっかりと耳を傾ける。ALT から書いた内容を「Good!」と誉められ、嬉しそうにする。	紹介したい人物が明確に決まり、まず This is の文を2つ書く。次に先程確認した疑問文を書き、その後前時で学習した He likes ～や She lives ～の文を書く。難しそうなる表情でなかなか先に進まない。10分間を全部使って 10 文全部書く。Japan を japan, Yes, he does. を Yes, He does. に間違える。	隣の生徒のワークシートを見ながら書き始める。紹介したい人物や内容が思い浮かばず、なかなか書けない。music の綴りが分からず、教科書を見て書く。1人目の紹介文3文を書いた後、疑問文の内容が思い浮かばず、Does he ～から先が続かない。教師のアドバイスを聞き、答えの文を先に書く。考え込むが、時間内に書くことができず、先に書いた答えの文を消す。
(2) 書いた英文をペアやグループで読み合せて確認し、相互評価を行う。	ペアやグループで読み合う活動や相互評価を通して、書いた英文の正確さを検証する。	読み合う活動では、相手の文を聞きながらうなずいたりその内容を聞き返したりする。相互評価では、隣の生徒の CW シート（2）の間違いを指摘したり質問に答えたりする。	隣の生徒と CW シート（2）を交換し、その英文を読んで黙々と相互評価をする。	相手を見ながら紹介文3文をしっかりと読む。後ろの席の生徒（native speaker）の発音を感じながら聞く。相互評価を丁寧に書く。
(3) 自己評価を行い、自分が書いた英文を訂正する。	自己評価を通して、書いた英文を見直すと共に、量的・質的視点から検証する。	単語数や英文数を数え、全ての項目に A と記入する。訂正する箇所がなく、早く作業を終える。	相互評価での指摘で間違っている箇所気付く、自己評価しながら訂正する。	ルーブリックを見ながら自己評価を素早く行う。今回は自分の満足のいく結果を残せなかったと感じる。
(4) 書いた英文をペアで読み合う活動を行う。	ペアで読み合う活動や相互評価を通して、書いた英文の正確さを検証する。	自分から周囲の生徒2名に声をかけ、積極的に読み合う活動を行う。活動の仕方を丁寧に教えながら活動する。	積極的に読み合う活動に取り組む。声に出して読むことによって間違っている語彙に自ら気付く。さらなる訂正を行う。	書いた英文をしっかりと読む。他の生徒に自分の音読を聞いてもらった後に照れ笑いをする。
6 本時の活動のまとめを行う。 	本時で行った表現活動を振り返り、自分の成果と課題を知り、次時の学習への意欲を高める。	- 友達2名の紹介文と Q&A 合計 10 文を自分で考えて書いた。そのうち8文は動詞に S を正しく付けて書くことができた。 - 自己評価では、「全部の項目で評価が A になって良かった。」という感想を記入し、自分の考えを表現することの自信をより高めることができた。	- 友達2名の紹介文と Q&A 合計 10 文を自分で考えて書いた。そのうち8文は動詞に S を正しく付けて書くことができた。 - 自己評価では、「40語以上書けるようになって良かった。」という感想を記入し、自分の考えを表現することの自信を高めることができた。	- 友達1名の紹介文合計3文を自分で考えて書いた。そのうち2文は動詞に S を正しく付けて書くことができた。 - 自己評価では、「前回の活動の結果から少し下がったので、次は A になるようにしたい。」という感想を記入し、自分の課題に気付く、次時の学習への意欲をもつことができた。

は、自分の考えを書いて表現している場面である。

(4) 授業の分析と考察

ア クリエイティブ・ライティングの工夫について

(ア) CWシートの工夫

CWシートを使用することで、本時の表現活動を、相手に家族や友達などを紹介するという具体的な場面の中で行うことができた。生徒は、積極的に既習の語彙や文構造を活用し、「誰を紹介しようかな。」などと考えるながら、意欲的に自分の考えを表現する活動に取り組むことができた。

(イ) CW活動の工夫

生徒は、CWシート（１）（資料３）の活動で本時の学習課題をつかみ、CWシート（２）（資料４）の活動では、場面に応じて自分が考えたことを、どんな英語で表現すべきか考えながら書き進めた。また、書いた英文をペアやグループで読み合い、相互に編集作業を行うことで、英文の質を高めることができた。

(ウ) 評価の工夫

生徒の本時のパフォーマンス５項目について、教師がループリック（資料２）を用いて評価を行った（図４）。aとbの対象は生徒が書いた単語と英文全てとし、c～eの対象は場面に応じた適切で正確な単語と英文のみとした。生徒は、数値化された具体的な基準による自己評価を通して、書いた英文の量や質を確認し、自分の到達度や課題を明確に把握することができた。また、CWシート（１）で語彙や文構造を正しく理解する活動が基となり、適確な相互評価を行うことができた。

イ クラス全体の変容

図５は、生徒個々のパフォーマンス評価の検証授業前後の変容を示したものである。量的・質的な点で向上が見られた生徒は26人となった（生徒の番

生徒	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	17	⑰	⑱	20	㉑	㉒	23	㉔	㉕	㉖	㉗	28	㉙	30	㉛																												
検証授業前・後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後																											
a	B	A	C	B	C	A	C	A	C	B	B	A	E	D	B	A	B	D	D	D	A	B	A	B	B	C	C	A	A	E	B	A	B	B	B	C	A	A	A	A	A	C	D	C	A	A	A	A	E	A	A	A	D	C	B	A	B	A	
b	B	A	C	B	C	C	C	B	D	B	C	A	E	D	B	A	C	D	E	D	A	B	C	C	B	D	C	B	A	E	C	A	B	C	B	C	A	A	A	A	A	A	C	D	D	A	B	A	A	E	C	A	A	D	C	B	B	B	A
c	C	C	C	C	C	D	B	D	B	B	A	E	D	C	A	C	D	E	E	D	A	B	C	C	C	D	C	C	A	E	C	B	D	D	B	C	A	A	A	A	A	A	D	E	C	A	B	B	A	A	E	B	A	B	D	D	B	B	A
d	B	B	D	B	C	B	D	B	D	B	D	A	E	D	C	A	B	D	E	E	D	A	B	C	C	B	D	C	B	A	E	C	B	B	C	B	C	A	A	A	A	A	A	D	D	A	C	B	B	A	E	A	B	B	D	D	B	B	A
e	B	B	C	B	D	C	C	B	D	C	C	A	E	D	B	A	C	D	E	D	E	A	C	C	C	C	D	D	B	A	E	C	C	C	C	C	C	A	A	A	A	A	A	D	D	A	C	B	A	A	E	C	A	E	C	B	B	B	A

図５ クリエイティブ・ライティングのパフォーマンス評価（１）全員

（検証授業前：平成23. 7. 14実施 第１学年＊組 ＊人 ＊人欠席）

（検証授業後：平成23. 11. 1 実施 第１学年＊組 ＊人 ＊人欠席）

- a 書いた英文の数
- b 書いた単語の数
- c 正しく書いた英文の数
- d 場面に応じた適切な内容の英文の数
- e 正しく書いた単語の数

号に○)。これらの生徒は、クリエイティブ・ライティングの工夫を通じた表現活動を通して、言語運用能力が高まり、自分の考えを書いて表現する力が養われたと考える。図6からは、学級平均の全項目で向上が図られたことが分かる。特に、項目dが他の項目と比較して伸びており、場面に応じた適切な内容の英文を書く力が向上したことを示している。項目dの詳細な分析（図7）では、場面に応じた適切な内容の英文を10文以上書くことができた生徒は7人増加し、5文以下しか書けなかった生徒は9人減少した。図8からは、「書く力」に自信をもつことができた生徒が増加したことが分かる。また、書いた英文を読んだり聞いたりすることで、他の技能でも自信をもつことができた生徒が増えた。以上のことから、生徒の英語学習への意欲を高め、自分の考えを書いて表現する力を養うために、クリエイティブ・ライティングの工夫を通じた表現活動が有効だったと考える。

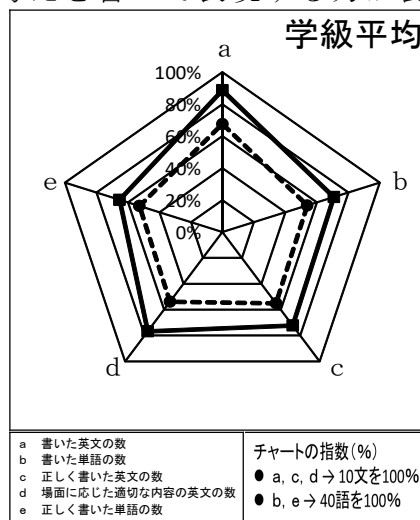


図6 クリエイティブ・ライティングのパフォーマンス評価(2)平均

(検証授業前：平成23. 7. 14実施 ●●●●)

(検証授業後：平成23. 11. 1実施 ■■■■)

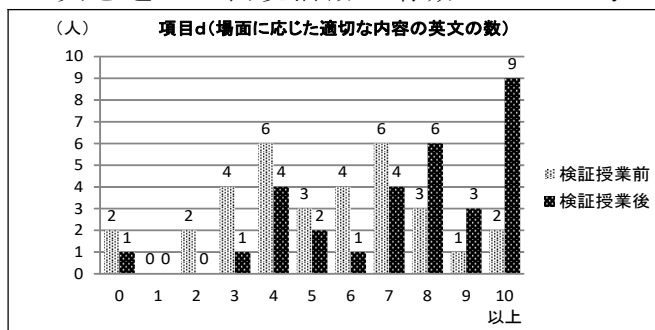
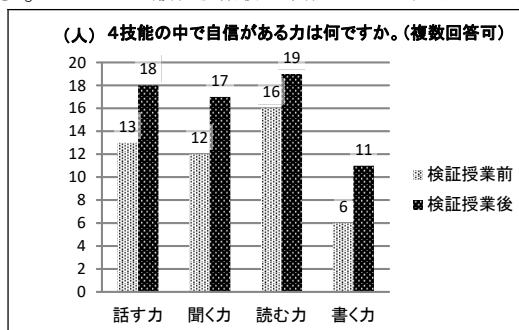


図7 クリエイティブ・ライティングのパフォーマンス評価 図8 4技能に関する意識調査の変容

(3) 項目d

(検証授業前：平成23. 7. 14実施 第1学年*組 *人 *人欠席)

(検証授業後：平成23. 11. 1実施 第1学年*組 *人 *人欠席)



ウ 抽出した生徒の変容

図9は抽出生徒のパフォーマンス評価5項目の変容を表している。

抽出生徒Aは、全ての場面において適切な内容の英文を正しく書くことができた。全項目で伸びが見られ、評価基準のAに達した。特に項目dが他の項目と比べて伸びていることから、知識として正しく身に付けた語彙や文構造を活用し、実際の場面に応じて自分で考えたことを書く力が養われたと考える。

抽出生徒Bは、全ての場面で英文を書くことができた。全項目で伸びが見られ、評価基準のAに達した。特に項目eが他の項目と比べて大きく伸びていることから、場面に応じた英文を、既習の語彙を活用しながら書いて表現することで、より多くの語彙を実際に使用する力が養われたと思われる。

抽出生徒Cは、英文の量や質（項目aと項目c）の大幅な向上が見られることから、意欲的に英文を書いて表現しようとする態度が養われたことがうかがえる。また、全項目で伸びているため、表現力が向上していると考察する。

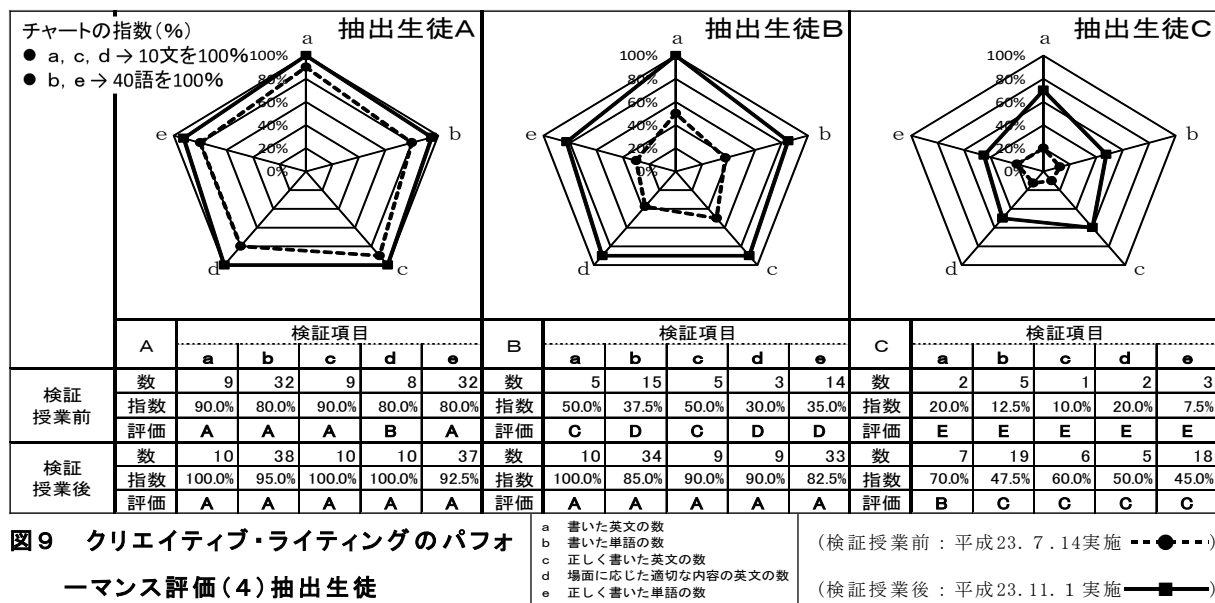


図9 クリエイティブ・ライティングのパフォーマンス評価(4) 抽出生徒

5 研究のまとめ

中学校第1学年Unit6における、相手に伝えることを目的としたクリエイティブ・ライティングの工夫を通して、自分の考えを書いて表現する力を養う英語科学習指導の在り方を追究した結果、次のことが明らかになった。

- (1) CWシートは、イラストや漫画を通して視覚的に言語の使用場面を提示できるため、生徒に興味・関心をもたせたり、活用すべき語彙や文構造を容易にイメージさせ、活用力を高めたりすることに有効である。
- (2) CW活動の段階的な表現活動の中で、ペアやグループで読み合い、相互に評価することは、4技能を関連付けた表現力の育成に有効である。
- (3) ルーブリックによる評価基準を設定したことは、生徒の活動意欲の向上や客観的な評価活動、また、教師によるパフォーマンス評価に有効である。
- (4) (1)～(3)の有効性から、クリエイティブ・ライティングの工夫を通じた表現活動は、自分の考えを書いて表現する力を養う手立てとして有効である。

6 今後の課題

- (1) 自分の考えを書いて表現する力を養うための手立てとして、CWシートやCW活動、ルーブリックに関する研究を継続する。
- (2) 「書くこと」と他の技能を統合的に育成し、自分の考えを表現する力を養うための手立てを追求する。

〈引用文献〉

文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」(平成20年9月)
 平田和人編著「中学校新学習指導要領の展開外国語科英語編」明治図書

〈参考文献〉

大久保洋子氏監修「児童英語キーワードハンドブック」ピアソン・エデュケーション
 西岡加名恵・田中耕治編著「『活用する力』を育てる授業と評価」学事出版